

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2026年3月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2026年3月13日～3月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の3月の状況を見ると業況DIは、前月より3.4ポイント改善の▲19.4となった。

2017年9月以来103ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲27.1、当月と比べ7.7ポイント悪化が見込まれる。

### 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2025年 10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	先行き見通し 2026年4月～ 2026年6月
業況	▲25.3	▲19.2	▲13.6	▲18.7	▲22.8	▲19.4	▲27.1
売上	▲10.0	▲4.8	▲6.4	▲3.9	▲12.2	▲7.7	▲20.1
採算	▲26.9	▲16.0	▲15.2	▲21.1	▲17.0	▲17.8	▲24.1
仕入単価	▲58.4	▲56.0	▲56.0	▲53.2	▲55.2	▲62.8	▲60.4
販売単価	23.9	26.4	20.8	26.5	26.8	27.1	31.8
従業員	35.4	35.2	32.0	34.3	35.0	37.2	34.1
資金繰り	▲14.6	▲12.8	▲15.2	▲14.9	▲15.4	▲14.7	▲16.2

### 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	先行き見通し 2026年4月～ 2026年6月
建設	▲35.5	▲34.5	▲35.7	▲34.5	▲27.6	▲24.2	▲34.5
製造	▲23.4	▲24.2	▲6.6	▲13.8	▲17.2	▲17.3	▲24.2
卸売	▲17.9	▲10.7	▲13.3	▲17.9	▲27.0	▲21.4	▲17.8
小売	▲41.2	▲17.6	▲26.7	▲35.3	▲25.0	▲44.4	▲38.9
サービス	▲12.5	▲4.6	13.7	4.0	▲17.4	▲4.0	▲24.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油高騰による広範囲な経済的影響から、個人消費意欲の減退及び民需の縮小による受注減少が懸念される。カントリーリスクによる米国の株価下落を受け半導体関連及び金融関連株の下落による経済の先行き不透明感から、中期的な経済の減速感が生じ、受注産業である建設業は直接的な影響を受けると考えられる。（総合工事）</li> <li>・中東情勢を背景とした原油価格の乱高下により、エネルギーコストの高騰が経営を直撃している。加えて深刻な採用難に対処するため賃金増額や建築費高騰・金利上昇による施主の投資意欲減退など、業界を取り巻く環境は極めて厳しい。令和 8 年度は暫定予算でのスタートとなる見通しだが、現場の深刻な実態を鑑み、エネルギー高騰対策など実体経済を下支えする早急な補正予算の編成を切望している。（設備・その他）</li> <li>・インフレによる建材、資材価格の高騰で住宅価格が上昇している中、実質賃金の上昇が緩やかであり、家計の将来不安から住宅購入のハードルは高くなってきており、住宅新築需要は低迷している。住宅受注減少分を補充すべく、事業用建物や公共工事に参入し、この厳しい状況を打開していく方針である。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラン情勢の緊迫化による原油価格の上昇で、今後仕入価格の値上げが考えられ、販売価格の変更を余儀なくされそう。（食料品）</li> <li>・価格改定など行い収益改善を進めているものの、想定外のことが発生し市況の変化が激しく、追従しきれていない。（食料品）</li> <li>・中東情勢によりすべてのモノが値上がりしそうな気配。自社の販売価格については上げたいところだが、これ以上あげると購買ターゲットから外れてしまう恐れがある。個人消費の冷え込みが心配。（家具・木材）</li> <li>・引き合いは有るが受注に至らないことも多い。同業者への応援で仕事を確保し凌ぐ月もある。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラン情勢の影響ですでに東南アジアからの輸入製品に出荷制限が開始している。今後も情勢が長引けば石油由来製品の高騰または出荷規制により、市場が混乱するものと思われる。（繊維衣服等）</li> <li>・3 月は年度末のため経費等の駆け込み需要はあったが、前年に比べると動きが鈍い感じがする。（機械鋼材等）</li> <li>・当月の業況は前年同期と比べ売上は増加。原因は公共団体からの大口契約があった。4 月からの仕入価格が上昇し、今後は取引先への価格転嫁がどれだけできるか未知数である（懸念材料として）。（その他）</li> <li>・灯油仕入価格の上昇を受け、16 日から大幅な値上げを行いガソリン同様に国の補助があるが、先行きは非常に不透明。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 月に入り大学への進学用スーツ(入学式)が動き出している。新社会人へのプレゼント商品でネクタイ・タイピン・ハンカチなど小物の動きもあり、来店客は少ないが高額品が売れており売り上げも上がっている。（衣服身回品）</li> <li>・観光需要の落ち着きに加え、ウインターアクティビティも終了したことから市内の人出は減少。夕方のイルミネーション点灯も無く、全体として閑散とした状況となった。海外インバウンドの姿も先月と比較して減少傾向。弊社のモーニング帯は引き続き一定の集客を維持しているものの、全体の来店数は落ち込みが見られる。（食料品）</li> <li>・ガソリン価格の大幅変動が今後どのように影響してくるか懸念している。（自動車）</li> <li>・中東情勢の悪化による燃料、潤滑油の出荷停止になる可能性あり。仕入価格の上昇、販売価格の上昇による消費の悪化。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌開催のコンサートの影響により前半比では大きく売上が増加。但し燃料価格が単価 40 円アップとなっており、使用の調整などで採算を考えながら見ていくしかないイラン問題の影響で物価のさらなる上昇。また、旅行手控えなど懸念。（ホテル・旅館）</li> <li>・中国からのインバウンド減少が原因なのか売上は対前年増を見込んでいたがほぼ同等に留まり、イラン戦争が長期化した場合、燃料費の高騰の影響により、先行きの業況悪化は間逃れない。（その他）</li> <li>・外国資本による民間開発案件は増加傾向にある一方、景気や国際情勢の変化による投資減退リスクもあるため、公共工事とのバランスを図りながら安定な受注確保に努める必要がある。（その他）</li> <li>・雪解けが早く、人の動きも活発になることに期待するも燃料価格の今後は不安しかない。人員増強策に注力する必要が大きい人員不足のなかで、今春の賃上げも含め人件費推移を注視しなければならない。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI3.5 ポイント改善、採算 DI13.9 ポイント悪化、仕入単価 DI3.5 ポイント悪化、販売単価 DI3.4 ポイント改善、資金 DI 横ばい、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 3.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事、設備・その他横ばい、建築業 26 ポイント改善となった。今年度工事の竣工がほぼ終わり、決算数字に直結する売上が見えてきた。今年度は受注物件に恵まれ、良い数字を残すことができた。次年度は反動で売上・利益ともに減少する見込み。新入社員はゼロで技術者不足も限界に近い。仕事があっても受注することができない減少が起きそうとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI24.2 ポイント改善、採算 DI7.0 ポイント改善、仕入単価 DI3.4 ポイント悪化、販売単価 DI20.6 ポイント悪化、資金 DI6.9 ポイント悪化、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 0.1 ポイント悪化となった。業種別では、家具・木材 25 ポイント、金属窯業他 1 ポイント改善、食料品 14 ポイント、印刷・出版 30 ポイント悪化となった。4 月から配送料値上げを運送業者から通告されているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI6.6 ポイント悪化、採算 DI4.7 ポイント改善、仕入単価 DI14.7 ポイント悪化、販売単価 DI17.3 ポイント改善、資金 DI8.3 ポイント改善、従業員 DI1.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 31 ポイント悪化、繊維・衣服等 17 ポイント、食料品 14 ポイント、機械鋼材 14 ポイント改善となった。灯油仕入価格の上昇を受け 16 日から大幅な値上げを行い、ガソリン同様に国の補助があるが、先行きは非常に不透明との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI8.3 ポイント悪化、採算 DI20.2 ポイント悪化、仕入単価 DI5.5 ポイント悪化、販売単価 DI15.3 ポイント改善、資金 DI13.9 ポイント悪化、従業員 DI6.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 19.4 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品、食料品横ばい、その他 40 ポイント、自動車 25 ポイント悪化となった。客数が前年を越えている。中東情勢の不安定化からティッシュ、トイレトペーパー等の消耗雑貨品の売上が好調。原油高騰による来店頻度減少影響が心配との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI2.9 ポイント改善、採算 DI12.7 ポイント改善、仕入単価 DI10.7 ポイント悪化、販売単価 DI7.2 ポイント悪化、資金 DI14.1 ポイント改善、従業員 DI4.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 21.4 ポイント改善となった。業種別では、理美容・クリーニング 50 ポイント、運送 8 ポイント悪化、その他横ばい、ホテル・旅館 33 ポイント、飲食 40 ポイント、整備業 50 ポイント改善となった。イラン問題の影響で物価のさらなる上昇。また、旅行手控えなど懸念しているとの声も寄せられている。</p>